



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月10日

上場会社名 地盤ネットホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6072 URL <https://jiban-holdings.jp/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)新美 輝夫  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)玉城 均 (TEL)03(6265)1834  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	1,716	16.6	△16	—	△9	—	△23	—
2021年3月期第3四半期	1,472	△20.4	71	44.7	75	41.1	70	—

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 △16百万円 (—%) 2021年3月期第3四半期 60百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	△1.01	—
2021年3月期第3四半期	3.10	3.10

(注) 2022年3月期第3四半期において潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	1,752	1,261	72.0
2021年3月期	1,717	1,278	74.4

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 1,261百万円 2021年3月期 1,278百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	0.00	—		
2022年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
通期	2,350	18.1	△16	—	△16	—	△33	—	△1.45	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	23,148,000株	2021年3月期	23,148,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	317,501株	2021年3月期	313,501株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	22,833,270株	2021年3月期3Q	22,752,572株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(時価の算定に関する会計基準等の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結会計期間における我が国の経済状況は、新型コロナウイルス感染症に対する各種政策の効果により回復の兆しが見られましたが、新たな変異株の出現や再度の感染拡大に対する懸念もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な事業領域である国内の住宅市場においては、テレワーク普及による働き方、暮らし方の変化が見られ、当第3四半期連結累計期間の新設住宅着工戸数(※1)の合計は332,737戸(前年同期比11.5%増)となりました。持家の着工戸数は223,645戸(前年同期比11.2%増)、分譲住宅(一戸建て)の着工戸数は109,092戸(前年同期比12.1%増)といずれにおいても増加となっております。

これらの環境において、当社グループは住生活エージェントとして、生活者の不利益解消という使命のもと、お客様の視点に立ったサービスを提供すべく事業推進しております。

当社グループの主要な事業である地盤解析サービス・地盤調査サービス・部分転圧工事サービスにおいては、事業規模拡大に向け営業体制の見直しを図り、人員増等の先行投資を第1四半期より実施しており、10月4日に中部エリアにおける事業拡大を目的に中部支社を開設いたしました。また、地盤沈下事故ゼロへの取り組みとして、解析品質の向上のための解析マニュアルの改定に続き、地盤調査基準書および地盤改良工事基準書の改定を実施しました。

新型コロナウイルス感染症による働き方や暮らし方の変化により、利便性重視の立地である感染リスクの高い密集した都市部から、敷地や床面積が広く居住環境を重視した立地である郊外へのニーズが増加してきております。

住宅関連サービスにおいては、安全な地盤が多い郊外への住み替えに対応し、中古住宅を仕入・リフォームを行い、個人顧客に向けて販売を行う「買取再販」を拡大しました。また、郊外で災害リスクを減らし安全安心な豊かな暮らしを実感して頂くためのコンセプトハウスを地盤の良い埼玉県飯能市で建築を開始しております。当社グループでは引き続き、災害から生活者の安全安心を守る不動産・住宅選びとして、郊外エリアへの住み替えや地方への移住のための「ジバングー不動産」、地盤から考える災害に強い住宅「地盤適合耐震住宅」「地盤適合耐震リフォーム」を提唱してまいります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高1,716,308千円(前年同期比16.6%増)、営業損失16,659千円(前年同期は営業利益71,016千円)、経常損失9,030千円(前年同期は経常利益75,081千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失23,029千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益70,515千円)となりました。

なお、当社グループは、地盤解析を主な事業とする単一セグメントで事業活動を営んでおり、サービス別の売上高は以下のとおりであります。

サービス	第13期 第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		第14期 第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)		前年同期比	
	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	増減額(千円)	増減率 (%)
地盤解析サービス	608,585	41.3	582,676	33.9	△25,908	△4.3
地盤調査サービス	371,869	25.3	422,653	24.6	50,784	13.7
部分転圧工事サービス	163,153	11.1	198,301	11.6	35,148	21.5
住宅関連サービス	176,858	12.0	298,181	17.4	121,323	68.6
その他	151,666	10.3	214,493	12.5	62,827	41.4
合計	1,472,133	100.0	1,716,308	100.0	244,174	16.6

(地盤解析サービス・地盤調査サービス・部分転圧工事サービス)

新設住宅工事において初期に実施される地盤調査サービスは、新設住宅着工戸数の増加に伴う受注件数の増加により、売上高は422,653千円(前年同期比13.7%増)となりました。

部分転圧工事サービスは、新設住宅着工戸数の増加と工事施工体制の拡大により受注件数が増加し、売上高は198,301千円(前年同期比21.5%増)となりました。

一方で、地盤解析サービスにおいては、競合他社の影響により受注件数は新設住宅着工戸数の増加ほど拡大せず、また、平均単価の下落により、売上高は582,676千円(前年同期比4.3%減)となっておりますが、受注件数は増加に転じており、前年同期比で1.1%増となりました。

(住宅関連サービス)

「地盤適合耐震住宅」「地盤適合耐震リフォーム」の提唱による受注拡大のための取り組みを行いました。その影響に加え、今年度より開始した「買取再販」の売上を計上したことにより、売上高は298,181千円（前年同期比68.6%増）となりました。

(その他サービス)

BIM（※2）を活用した3Dパース（完成予想図）・ウォークスルー動画・VRの提供を含むBCPOサービスが、ウィズコロナ、アフターコロナにおける有効な営業ツールとして工務店・ビルダーの利用が進みました。さらに今までの戸建に加え、デベロッパーの利用にも繋がり、商業施設や集合住宅の案件も増え始めております。その結果、その他サービスに含まれるBCPOサービスの売上高は144,985千円（前年同期は69,235千円 109.4%増）となり、その他サービス全体の売上高は214,493千円（前年同期比41.4%増）となりました。前連結会計年度に引き続き、BIMサービスは当社グループの成長のための主要サービスと位置付け、ダナンBCPOセンターにおける投資を継続し、今後も拡大に取り組んでまいります。

(※1) 国土交通省「建築着工統計調査報告」より、当社グループの事業領域である持家、分譲住宅（一戸建て）の戸数を合算して、新設住宅着工戸数としております。

(※2) BIM: Building Information Modeling

コンピュータ上に作成した主に3次元の形状情報に加え、室等の名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げ等、建物の属性情報を併せ持つ建物情報モデルを構築するシステム。

(2) 財政状態に関する説明

当連結会計年度における財政状態は下記の通りであります。

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は1,752,155千円となり、前連結会計年度末に比べ34,866千円増加いたしました。流動資産は1,634,092千円となり、前連結会計年度末に比べ60,727千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が487,637千円増加、受取手形及び売掛金が20,872千円増加、未成工事支出金が16,813千円増加、有価証券が256,120千円減少、前払費用が138,963千円減少、未収入金が104,245千円減少したことによるものであります。固定資産は118,063千円となり、前連結会計年度末に比べ25,861千円減少いたしました。これは主に、長期貸付金が27,061千円減少したことによるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は490,309千円となり、前連結会計年度末に比べ51,111千円増加いたしました。流動負債は304,632千円となり、前連結会計年度末に比べ35,493千円増加いたしました。これは主に、工事未払金が14,537千円増加、未成工事受入金が72,374千円増加、未払金が54,386千円減少したことによるものであります。固定負債は185,676千円となり、前連結会計年度末に比べ15,617千円増加いたしました。これは主に損害補償引当金が15,617千円増加したことによるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は1,261,846千円となり、前連結会計年度末に比べ16,245千円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失23,029千円の計上、為替換算調整勘定が6,497千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の新たな変異株の出現や再度の感染拡大の懸念等、依然として先行き不透明な状況が続いておりますが、新設住宅着工戸数に関しては、回復傾向が継続するとの仮定のもと算出しており、当初想定とおりの回復傾向にあるため2021年11月11日公表時から変更しておりません。なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	550,865	1,038,503
受取手形及び売掛金	265,148	286,020
有価証券	256,120	—
商品	16,667	12,943
販売用不動産	66,943	67,751
未成工事支出金	1,512	18,325
仕掛品	4,469	5,250
貯蔵品	1,751	465
前払費用	207,647	68,683
未収入金	175,939	71,693
その他	53,492	85,899
貸倒引当金	△27,193	△21,445
流動資産合計	1,573,364	1,634,092
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,881	8,284
減価償却累計額	△272	△596
建物及び構築物（純額）	3,608	7,687
機械装置及び運搬具	20,236	20,236
減価償却累計額	△16,157	△17,524
機械装置及び運搬具（純額）	4,078	2,712
その他	42,712	44,937
減価償却累計額及び減損損失累計額	△26,165	△31,259
その他（純額）	16,547	13,678
有形固定資産合計	24,235	24,078
無形固定資産		
ソフトウェア	29,875	29,379
のれん	5,743	4,223
その他	2,588	1,905
無形固定資産合計	38,208	35,508
投資その他の資産		
投資有価証券	1,202	3,202
長期貸付金	40,995	13,933
繰延税金資産	126	—
その他	41,531	43,714
貸倒引当金	△2,374	△2,374
投資その他の資産合計	81,481	58,476
固定資産合計	143,924	118,063
資産合計	1,717,289	1,752,155

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	65,680	67,244
工事未払金	18,572	33,110
未払金	77,790	23,403
未成工事受入金	3,098	75,472
未払法人税等	12,937	11,070
賞与引当金	25,614	15,851
その他	65,444	78,478
流動負債合計	269,138	304,632
固定負債		
長期借入金	160,000	160,000
繰延税金負債	59	59
損害補償引当金	10,000	25,617
固定負債合計	170,059	185,676
負債合計	439,197	490,309
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	491,162	491,162
資本剰余金	24,740	24,740
利益剰余金	832,879	809,850
自己株式	△65,622	△65,622
株主資本合計	1,283,160	1,260,130
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△286	—
為替換算調整勘定	△4,781	1,715
その他の包括利益累計額合計	△5,068	1,715
純資産合計	1,278,091	1,261,846
負債純資産合計	1,717,289	1,752,155

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	1,472,133	1,716,308
売上原価	856,337	1,111,480
売上総利益	615,795	604,828
販売費及び一般管理費	544,779	621,487
営業利益又は営業損失(△)	71,016	△16,659
営業外収益		
受取利息	1,012	922
受取配当金	167	43
未払配当金除斥益	309	—
為替差益	1,249	—
助成金収入	—	1,200
受取保険金	432	1,016
有価証券売却益	—	6,647
その他	1,482	894
営業外収益合計	4,653	10,725
営業外費用		
支払利息	0	—
為替差損	—	2,920
その他	588	176
営業外費用合計	588	3,096
経常利益又は経常損失(△)	75,081	△9,030
特別利益		
新株予約権戻入益	4,231	—
固定資産売却益	4	—
特別利益合計	4,236	—
特別損失		
固定資産除却損	182	—
リース解約損	928	—
特別損失合計	1,111	—
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	78,206	△9,030
法人税等	7,690	13,998
四半期純利益又は四半期純損失(△)	70,515	△23,029
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	70,515	△23,029



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	70,515	△23,029
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8,555	286
為替換算調整勘定	△1,528	6,497
その他の包括利益合計	△10,084	6,784
四半期包括利益	60,431	△16,245
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	60,431	△16,245
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

当社は、地盤解析を主な事業とする単一セグメントであるため、記載を省略しております。